

令和5年度第6回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和5年7月20日（木） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所 本庁舎3階 301会議室

■出席委員 13名（50音順）

朝日 ちさと会長、宮本 太郎副会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、高木 康裕委員、春田 祐子委員、
福井 博文委員、細野 佳苗委員、田中 和則委員、

■欠席委員2名（50音順）

澤登 早苗委員、鷺尾 和彦委員

■事務局

鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、池田主任、上川主任

■傍聴者 2名

■議事日程

開会

- 1 第六次多摩市総合計画の施策ページについて
- 2 その他

閉会

【開会】

出席委員数は13であり、定足数に達しているため審議会は成立した。

(事務局より配布資料の確認)

【1 第六次多摩市総合計画の施策ページについて】

○市民活動、コミュニティ、生涯学習・社会教育、文化（政策C 施策4～7）

事務局より資料63-3について説明。

会長 施策4の現状と課題で、「少子高齢化社会を迎える中で、住民主体の介護予防やフレイル（虚弱）予防をはじめとした健康づくりや居場所づくりの取り組みを地域に広げていくことが求められています」とあるが、唐突な印象を受ける。また、成果指標に「健幸まちづくりの取り組みについて「知っている」と回答した市民の割合の向上」とあるが、関連する主な計画には生涯学習推進計画だけが記載されているので、少しわかりにくい。

事務局 この施策は第五次総合計画を踏まえて策定された生涯学習推進計画をベースにしている。生涯学習推進計画の柱である「健幸まちづくり」を目指し、指標にも取り入れている。生涯学習には勉強の意味だけでなく、活動や取り組みも含まれる。住民が運営する介護予防教室等もあるため、今回の扱いとしている。

会長 「健幸まちづくり」は独立した施策がないため、第六次総合計画ではあらゆるところに入ってくるということか、それともここに関連が深いために記載しているのか。

事務局 前回は政策Cはいろいろなものにつながるとの議論があったが、生涯学習や社会教育には関係が深い。

委員 私もここは気になった点である。最後の文を「予防をはじめとした健康づくりや居場所づくりのための学びと取り組みを」と、「学び」を補うことで生涯学習につながり、違和感がなくなるのではないか。

委員 施策4と5は施策の方向性が抽象的であると感じる。施策4の「(2)人と人がつながり認め合うまち」では「～共生のまちを目指します」とあるが、そのために何をやるか方向性が見えない。生涯学習推進計画では、「わくわく通信」や「通いの場マップ」、コミュニティセンターの記載がある。具体的な施策や施設につながる例を基本計画にも入れてはどうか。

施策4が市長部局の話で、施策5は教育委員会、第二次多摩市教育振興プランの社会教育部分であると思われるため、必ずしも一項目にするわけではないが、重複箇所を整理するとわかりやすくなると思う。

施策6のスポーツについて、ここでのスポーツのイメージは球技、トラック競技、水泳等になっているが、ジョギングやウォーキング等身近なスポーツも含めた形で書くとよい。

会長 施策4と5は重複感があるとの指摘だが、施策の成り立ちと所管課との関係はどのようになっているか。

- 事務局 政策のマネジメントは各部の部長、施策は課長がマネジメントするとして構成を組んでいる。複数の計画がまとまっている部分は複数の担当部課で行っている。施策4と5は元となる計画は違うが、学びや交流については重なる部分があるため、意見を踏まえて検討する。また、スポーツの範囲については、ジョギング、キャンプ等のレクリエーションを含めたものであると認識している。
- 委員 キャンプについては、多摩市には大谷戸公園キャンプ練習場があり、市民サービスとして新しい部分である。健康都市多摩として、ジョギング等も重視し、スポーツに入っていることを示してもよいのではないか。
- 委員 「スポーツ」はプロスポーツや競技、「運動」は健康増進というイメージがある。健康増進のために運動を行う市民が多いと思うので、書き分けてはいかがか。
- 会長 「スポーツ」は、用語としての伝わりやすさではどうか。
- 委員 東京都のスポーツ推進計画でスポーツを定義しており、球技やアスリートだけではなくジョギング等も含むとの記載があったと記憶している。多摩市の計画でも「スポーツ」には「運動」のニュアンスも含まれると記載することは必要と考える。
- 事務局 市のスポーツ推進計画では、「ルールに基づいて勝敗や記録を競う競技スポーツだけでなく、健康づくりのウォーキングや体操、介護予防のトレーニング、子ども同士や親子での遊び、学校での体育活動、体操やダンスなどの身体活動、自然に親しむ野外活動やレクリエーションなど」も含めてスポーツと定義している。現状と課題もしくは注記に、「スポーツ」が広い範囲で定義されていることを示したい。
- 委員 スポーツ施設としてキャンプ場が入るとはなかなかイメージしにくい。
- 会長 余談だが、学生がスポーツ庁のアンケート結果を用いた研究で、なぜ大人はスポーツをしないかレポートを書いた際、意外に思ったのは大人がスポーツを行うきっかけとしてスポーツ観戦が多かったことである。
- 委員 施策7に関して、文化芸術振興計画の前段階である多摩市文化芸術ビジョンが7月に策定された。そこでの目指すべき姿は「多様な文化芸術に、日常的に親しむくらしがまち全体に広がっている」であるが、これを反映してはどうか。また、多摩市らしさについてキーワードとして出てきたのは、「乳幼児期から日常的に多様な文化芸術に触れ親しむくらし」であり、重要なポイントになっている。施策7の目指す姿の2行目を「乳幼児期から日常的に多様な文化芸術に触れ親しむくらしがまち全体に広がっています」とすると、最新の形に近い。
- 事務局 多摩市文化芸術ビジョンについては、委員会から報告を受けたばかりであるため、所管課と調整させていただく。
- 会長 この施策の目指す姿について、基本構想の議論の中で「受け身ではなく」との指摘があった。施策の中では「発信、活動」とあるが、目指す姿では「享受する」と読める。
- 事務局 こちらについても合わせて調整したい。
- 副会長 成果指標の目標値について、数値の有無はどう理解すればよいか。例えば生涯学習は趣味・教養とされる一方、世の中ではリスクリングがキーワードになっている。方向性には自分を高める、学び直しなどのキーワードは出ているが、結局居場所づくりに終始している。居場所づくりも重要だが、キャリアを再形成する機会の提供が、自治体の中

でこれから必要になる。国は人材開発支援助成金をかなりの規模で打ち出しているが、これは例えば大会社が通信などの新しい分野に事業展開する際、人員の訓練に対する助成となっている。地域の中でくらしている人たちが新しいチャレンジをするにはハードルが高い。基本構想で学び合いを意識した地域の話が前面に出ているので、生涯学習は重要である。生涯学習推進計画ではどのような議論になっているのか。例えば公民館の利用者数は各地で激減していて、関連予算は日本の個別の費目で減少が大きいものの一つとなっている。そこを下支えする流れが出てくるとよい。

また、スポーツではJリーグが「シャレン！（社会連携）」として地域連携の事業を行っている。例えば湘南ではベルマーレが活躍していて、規模は多摩市より小さいがすさまじい地域の統合力を発揮している。突飛な意見だが多摩市でもJリーグ等プロチームを招へいできるといいのではないか。

事務局 成果指標は利用者数などが中心となっている。アウトカムと言えるかというところではあるため、もう少し大きな粒度での指標等も検討する。方針が未定の個所は数値が空欄となっている。また、生涯学習推進計画ではリスクリングについて、大学との連携の項目で言及しているかと思う。今も地球大学院等で連携しているが、それを地域でどう活かすかについては課題となっている。プロスポーツの招へいについて、多摩市は東京ヴェルディの複数あるホームタウンの一つとなっており、障がい者スポーツでの連携等、貢献いただいている。あとは味の素スタジアムへ如何に市民が出向くかが課題である。多摩市民デーを設け、学校を通じて告知もしている。また、読売巨人軍との連携も行っているが、いずれもさらに盛り上がる余地はある。

会長 公民館に関連して、現在設定されている指標は施設系のアウトカムが多いが、今後は施設を集約し、官民連携等で質を高めるという方向性であるため、単純に利用者数ではない、何らかの工夫が必要ではないか。

また、湘南ベルマーレの例として、地域新電力と連携して、値段が少し高くても地域にお金が還元されるよう、地域新電力（再エネ）を使っているという話がある。日本では電気は安さ重視のため地域新電力が普及しにくい、スポーツが有力な入口となるケースもある。ここに記載されている以上に、スポーツ分野にはポテンシャルがあるのではないか。

もう一つ、施策6のスポーツで、学校の地域連携とあるが、教育振興プランには位置づけられていないのか。

事務局 部活動の地域連携、地域移行についてはここ数年、国でもガイドラインを出す等の動きがあるが、教育振興プランではそこまで具体的に書かれていないと記憶している。

委員 部活は、地域格差が非常に激しくなっており、近隣では茨城県がかなり外注を進めているが、県内でも進んでいるところとそうでないところがある状況である。教員の働き方改革、なり手の確保など課題があるが、大学生との連携で部活を見てもらう等の動きがあるようだ。ガイドラインはあるようだが、現状はそれぞれの地域で進めている。

副会長 公立学校では4%の教職調整額のみで残業代が出ず、特に部活動の負担が大きくなっている。これから教員を確保するために部活動の負担を削減していくと予想され、地域の子どものスポーツは大きな壁に直面する可能性がある。

会長 学生の研究例に、栃木だったと思うが「地域スポーツクラブ」が学校との地域連携をしているとあった。盛んな地域ではそのような取組を進めている。

事務局 部活動の地域連携については、7月頭の総合教育会議で議題として挙がっていた。教員の働き方改革と子どもたちが望む形での部活動はどういうものかという観点で、これから教育委員会とくらしと文化部で議論していく。

委員 施策5の施策の方向性「(1)社会教育の振興」に「公民館や図書館をはじめとする社会教育施設」とあるが、そこに市民が活用できる場として、パルテノン多摩についても記載するとよい。

事務局 パルテノン多摩については、施策5の郷土文化、植物園は施策4や5に関わるなど複数に関わるが、どこかに記載することを検討する。

○産業振興、観光、都市農業（政策D 施策1～4）

事務局より資料63-4について説明。

委員 施策2で拠点地区活性化とあるが、拠点地区が「聖蹟桜ヶ丘駅周辺」「多摩センター駅周辺」「永山駅周辺」の3か所になっている。「唐木田」も市内の駅であり、美しい住宅地であると思うが、拠点地区とはしないのか。

事務局 多摩市の拠点としては「多摩センター」「聖蹟桜ヶ丘」の2つが大きな拠点であり、「永山駅」は若干毛色が変わり、広域を視野に入れた拠点ではなく駅を中心とした小さな拠点と考えている。一方で、唐木田駅は拠点としての位置づけはしていない。東京都の多摩地域の計画でも、唐木田駅は多摩センターのエリアに含めると位置づけている。

委員 唐木田駅周辺に住んでいた経験から言うと、このエリアは個性的な町並みで、観光の視点からのまちの魅力づくりの推進という点から、住宅地の散歩、お茶をすること、なだらかな公園など、多摩市の持つ魅力を凝縮しているようなまちではないかと考えていた。既にある資源でもあまり魅力と認識されていない点を活かす方法もあるのではないかと感じる。

事務局 観光的な魅力で言うと、唐木田の道もあり、多摩市からよこやまの道へのアクセス地点となるなど、「拠点地区活性化」には入っていないが唐木田の持つ資源は重要であると認識している。

委員 都市計画マスタープラン策定の際も同じような議論があったが、ここで取り上げている商業活性、産業振興の視点から見ると、この3地域でよいのではないかと私は考えている。唐木田の住宅地は都市計画的には非常に魅力的なまちのつくり方をしていると感じている。

会長 よこやまの道の話が出たが、フィルムコミッションなど、地域の特徴は観光につながる。街並みが持つ魅力、などと言入れてもよかったのではないかと。

事務局 今の議論については、近場・身近なエリアの見直しとなるマイクロツーリズムにおいて、観光的な視点で書き込めるか所管課と検討したい。

委員 拠点地区活性化ではなく、地区の活性化で言うと、例えば、今は桜ヶ丘・多摩センター・永山駅前の支所で各種手続きができるものの、市役所本庁への移動が不便である。地域によってはミニバスのルートさえない。永山駅まで行き、そこからバスを利用するがそ

の便数も少ないので結局タクシーを利用するという声も聞こえる。市役所へのルート整備についても考えていただきたい。

委員 市民サービス部門の分散化傾向が強く、今度の市役所の建て替えに際しては、各拠点地区を中心とした配置になると思うが、市役所の建て替えと絡めて市民サービスをどうするか、今討議している最中である。

事務局 政策Eで公共交通やまちづくりを検討するため、いただいた意見は其中で反映することを考えている。

会長 アクセスについて、今はどれだけ人が集まるかという観点で話しているが、MaaSなどにより乗り換えがよりシームレスに楽になれば、駅圏の考え方が変わるという話もある。

副会長 個別の計画に則って記述されているので縦割り色があるのはやむを得ないと思うが、一方で、この総合計画では3つの重点テーマで横串を刺している。人手不足とまちに仕事をつくることは、福祉的な就労と一般就労の二極化の中で、いろいろな性質の人が自分たちの資質を活かして働くことが難しくなっている。福祉が関わると地域福祉計画になり、施策1は産業振興マスタープランの話である。活力・にぎわいの話を重点テーマとして横串を刺している総合計画なので、ここでは新しい働き方についても何か光が差すとよい。また、農福連携については「多摩草むらの会」の活動もあるが、今日の農業計画の話になっている。ここまで横串を刺したのに最後の最後に個別計画に制約されてしまうことがもったいないと感じる。

また、環境ツーリズムに関して、学生に地域振興の議論をさせたところ、例えば岡崎市の「東海オンエア」のように、地域をプロデュースするユーチューバーの育成が必要との意見が圧倒的に多かった。総合計画にユーチューバーを掲げるのは難しいかもしれないが、サンリオやジブリの聖地等を含めた多摩市の総合的なイメージがないと感じる。

委員 DX化についての記述が少なく残念に感じたので、全体にDXについての記載を入れるとよい。ユーチューバーもDXの一つで、場所と時間をいきなり越えられることが強みである。例えばタクシー配車依頼で、最初に電話応答するのはAIであるし、6割以上の方が携帯電話のアプリでの配車を利用しているなど、自分は使えない、興味がないと感じている人でも既に大きく巻き込まれていると言える。

一つ一つが独立している市内の様々なコンテンツを、ネットワークで結び付けるとよい。農業などはまさにそうであるが、「活力ある地域経済」とするなら、まずは言葉としてでもDXを入れていくべきではないか。

事務局 福祉的な視点については、施策1の「(2) 就労しやすい環境の提供」で「様々な要因で就労に結びつかない方を支援していくための環境整備」としている。例えば病気でフルタイムの仕事をあきらめざるを得ない方や介護離職など、様々な要因で就労に結びつかない方の支援をこれまでも考えてきたため、言葉に不足はあるかもしれないがここに記載している。

農業については、都市農業振興プランに農福連携の記載があるが、総合計画への記載については所管課と検討したい。

また、DXについてはご指摘のとおりである。デジタル技術を活用した農業の例では、都のインキュベーション施設としてスマートフォンで温度や肥料を管理できる温室が

連光寺にあり、市内の農家が実際に使っているため、事例も踏まえた記載を検討したい。観光について、どういった形の DX ができるか所管課もイメージしにくいところがあるが、コロナ禍での動画による発信やインスタ映えするスポットの紹介などが挙げられる。ただし、観光地ではオーバーツーリズムによる公害が起きるおそれがある。実際、多摩市でも都立桜ヶ丘公園の夜景が人気となり、周辺の路上駐車で住民が困っているという状況があり、住宅地の魅力をどのように発信するかについては課題があるため、考えていきたい。

委員 指標のインスタグラムの目標人数は、現状の 362 人をすぐに超えられると思う。
会長 八王子市ではアウトドア、キャンプを推進したいが、ごみで困っているという話を聞く。行政だけではなく地域連携の必要がある。DX の記載が少ない点は、若い方や事業者から指摘されると思われる。

委員 施策 2 の拠点地区活性化の推進について、主な施策の方向性には、例えば（1）聖蹟桜ヶ丘駅周辺地区では「駅周辺低未利用地の有効利用」とありハード面がリアルに記載されているが、具体的なところは都市計画マスタープランに記載してはどうか。個別計画の交通マスタープランは市内事業者や利用者、専門家などが数年かけて策定しているため、そちらとの兼ね合いを図りつつ共存する必要がある。そこで抜けている、例えば新型コロナウイルスで表出したことや DX など時代とともに変わっていくような新たな観点があるときに、追加いただきたい。

委員 施策 1 の目指す姿で「商店街では魅力的で個性的な店舗が出店し、人が行き交う交流拠点となっています」とあり、経済とまちの両視点が入っているところがよいと感じた。そこで、主な施策の方向性（1）では、例えば「持続的な経済成長とまちの活性化に向けた産業の振興」とするなど、表題にまちの活性化といった観点も入れるとよい。

3 ポツ目に「商店街などの中小企業等による地域の特色を活かした事業活動を支援します」とあり、議論が反映されていることはよい。

5 ポツ目で「市内の空き店舗活性化について、対策を検討し実施します」とあるが、市内の空き店舗活性化は、南多摩尾根幹線道路のつながりでよいか。むしろ 3 ポツ目で「商店街が地域の特色を活かして活動していく」とし、次に「市内の空き店舗活性化について対策を検討する」という流れがよい。目指す姿に「商店街では魅力的で個性的な店舗が出店し、」とあるので、今ある商店街の活性化と新たな店舗の出店をセットで記載する。

6 ポツ目について、多摩市の企業は、例えば社員食堂を市民に開放するなど地域とのつながりが深く持ち、企業にとっては地域貢献、市民にとっても大切な場になっている。先に審議機でも議論したが、企業と地域とのつながりの記載が必要と思う。

施策 2（2）では「多摩センターの将来ビジョン等に基づき、市民、事業者、関係機関等が連携しながら」とあるが、この将来ビジョンが何を指し、多摩センターをどのようにしていくか書くとよい。また、唐木田地域については、先ほどあがった特徴のほかに、複数の方向への商店の集まり、郵便局、大規模店舗、大学など特色のある施設が揃っている。文化のデザイン事業で整備した彫刻のある駅前広場があり、こうした場はまちづくりの核として活かせるのではないかと。個人的意見としては、これから多摩市の

新しい資源として活用することを表すために、多摩センター駅周辺の一つの項目としてでもよいので、唐木田の名を新たに掲げてどこかに記載することはいかがか。基本計画に記載することで都市計画マスタープランに支障がある部分は調整が必要であるが、一般的な対応として抽象的に書くという方向性には賛成できず、できるだけ具体的に書いてもらいたい。なお、先に指摘のあった聖蹟桜ヶ丘の未利用地活用の点については、支障があるなら記載がなくてもよいと思う。

施策3の施策の方向性「(2) 様々な主体と連携した観光振興の展開」で、「企業や団体等とまちの魅力向上、来街者、関係人口・定住人口増加等に向け」とあり、「関係人口」が入っていることはよい。数の面での「増加等」だけではなく「関係人口・定住人口のつながりを強化する」ことで、まちの活性化を図る、観光振興を図るという観点が必要である。「多摩市観光まちづくり交流協議会と連携した取組み」とあるが、この表記ではすべての取組がここに収れんされると捉えられるので、もう少し幅広く受けたい。「多摩市観光まちづくり基本方針」は既に策定されているか、教えていただきたい。

施策4の成果指標で、現状の農家数が70戸、目標値は50戸としている。減少の目標値だけでは計画の趣旨が伝わらないと思うので、農業に関わる人口ということで見れば、これから総合計画を進める中で農業とつながる人が増えるというニュアンスがあると思う。ニュアンスを数字で書くのは難しい場合はどこかに書いていただくことが必要だと考える。最後に、多くの自治体には市民が農業を経験する場として市民農園があると思うが、多摩市にはないのか。

会長 具体的な提言を多くいただいたためすべてには答えられないが、今すぐに事務局でご回答いただけること、大きな方針として考えているところがあれば回答いただきたい。

事務局 施策3の「多摩市観光まちづくり基本方針」は検討段階である。市民農園については、多摩市では家庭菜園として市で借り上げた土地を区画割し、市民に提供する取組を行っており、人気が高くなっている。

「多摩センターの将来ビジョン」の策定は途中段階であり、総合計画にぎりぎり間に合うかどうかというタイミングである。いただいたご意見を踏まえ、書き方については所管課と検討する。

委員 「多摩市観光まちづくり基本方針」は非常に重要な方針になると思うので、記載した施策の方向性を強化するためなどとして、言及するとよい。また、家庭菜園については理解したが、今後の拡充についても記載いただきたい。

会長 尾根幹線道路について、都道や国道の整備の際に土地を捻出するという方法があると思うが、先日東京都の事業について伺う機会があり、多摩地域は住宅エリアが隣接しているため用地の捻出が難しいという話を聞いた。

また、そこにはオリンピックのロードレースのレガシーとして自転車道ができる予定になっているが、ロードレーサーは車道を走ることになるのか。多摩市がロードレースを資源とするのであれば、ロードレーサーの走る場所など、食い違いがないように協議してほしい。

事務局 今回、土地利用転換を図るのは東京都とURの所有地である。団地・賃貸の建物の老朽化に合わせて建て替え、用地を創出する。また、現段階で自転車道については、歩道

が広いところに歩行者と自転車が半々のエリアを設定し、さらに高速で走る自転車用にコースを設置する方向で進めていると聞いている。

会長 次回の審議会では、今回の審議の終わり部分と、農業分野についての付け加えがあればそこから続ける予定である。

【2 その他】

事務局 次回審議会は、7月29日14時から特別会議室で開催する。

会長 これにて第6回審議회를閉会する。

【閉会】

以上